



JT Group
経営計画2024

寺畠正道
JT Group CEO

将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。

その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

1. 喫煙に関する健康上の懸念の増大
2. たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
3. 国内外の訴訟の動向
4. たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
5. 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
6. 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
7. 買収やビジネスの多角化に伴う影響
8. 国内外の経済状況
9. 為替変動及び原材料費の変動
10. 自然災害及び不測の事態等

- 2023年度総括
- 経営計画2024
- Sustainability
- JT Group Purpose / D-LAB
- たばこ事業 2023年度実績及び2024年度ガイダンス
- JT Group 2023年度実績及び2024年度業績見込
- Closing Remarks

- 全事業において当初計画および前年実績を凌駕し、売上収益から当期利益まで過去最高*となる実績

- たばこ事業 |

- **Combustibles** | GFBの牽引によりシェア伸張が継続。全クラスターにおいて好調なプライシング効果が発現
- **RRP** | 日本におけるシェア伸張と地理的拡大の加速による数量成長

- **医薬事業** | オーガニックな売上成長、ロイヤリティ及び一時金収入の増加

- **加工食品事業** | 外食需要の回復に加え、価格改定施策を通じた利益成長

(2022年度比)

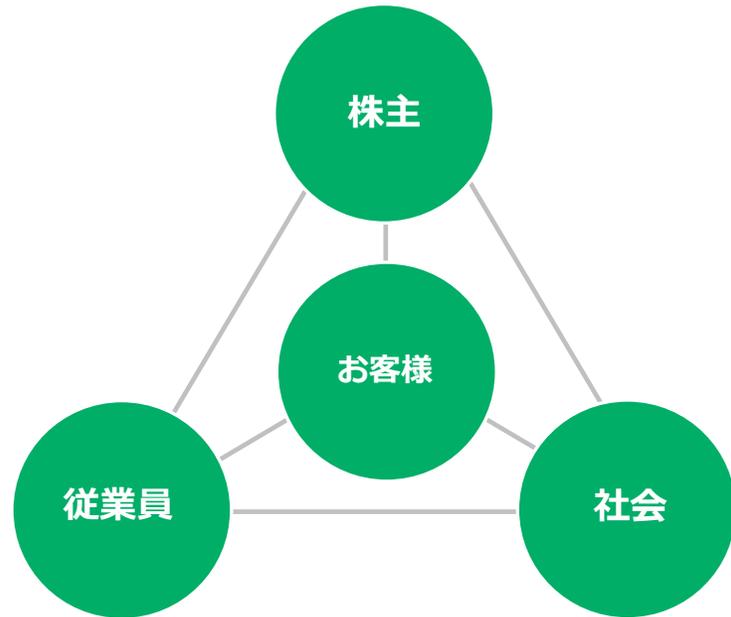
- ✓ 全社為替一定AOP : **+5.2%**
- ✓ 当期利益 : **+8.9%**

(2023年当初計画比)

- ✓ 全社為替一定AOP : **+5.2%**
- ✓ 当期利益 : **+9.6%**

- **一株当たり配当金 : 194円 (予定)**

4Sモデル



JT Group Purpose

心の豊かさを、
もっと。

- 中長期に亘る持続的な利益成長に繋がる事業投資を最優先
- 事業投資による利益成長と株主還元のバランスを重視

全社為替一定AOP：中長期に亘る年平均Mid to high single digit成長の実現

- RRP投資の加速に伴い2024年は前年同水準となるものの、2024-26年では年平均mid single digitの成長を見込む

JT Groupの利益成長の 中核かつ牽引役

たばこ事業

Combustiblesにおけるトップライン成長 及びHTSへの優先的な投資

- 成長投資の実行及びCombustiblesにおけるROIの継続的な改善
- HTSを最優先としつつ、他のRRPカテゴリにおいても選択的な投資を実施
- 組織ケイパビリティの強化

JT Groupの利益成長を補完

医薬事業

次世代戦略品の研究開発 及び各製品の価値最大化

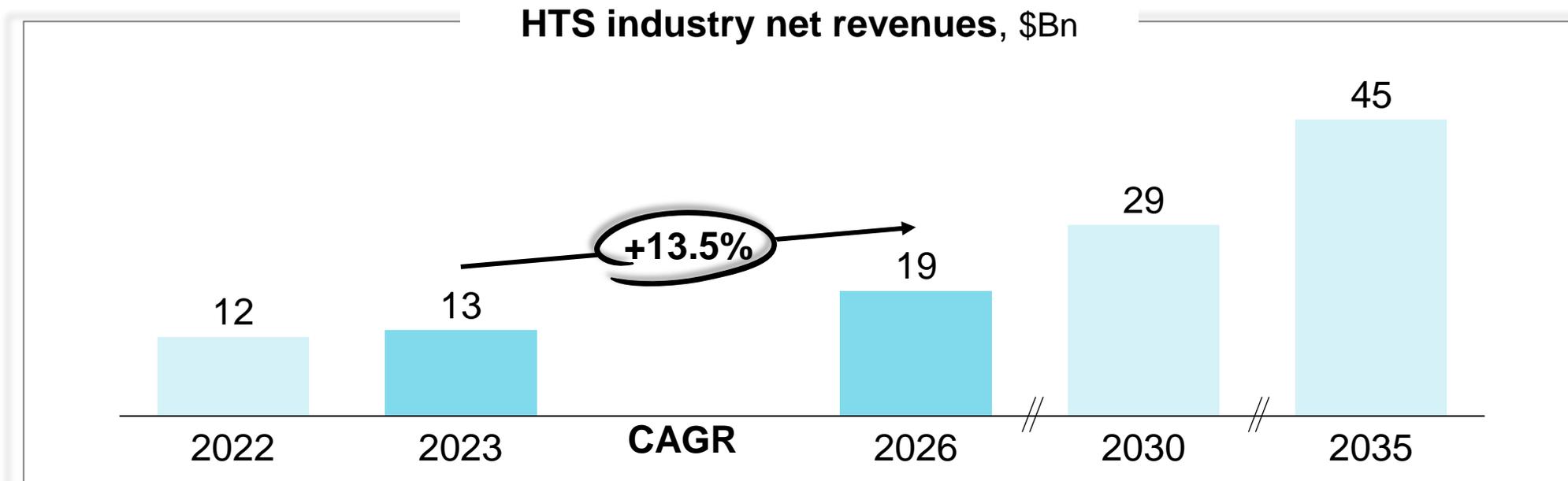
- 創薬力の向上とユニークなパイプライン構築
- 国内市場における収益基盤強化
- 中長期的な事業基盤最適化による生産性向上

加工食品事業

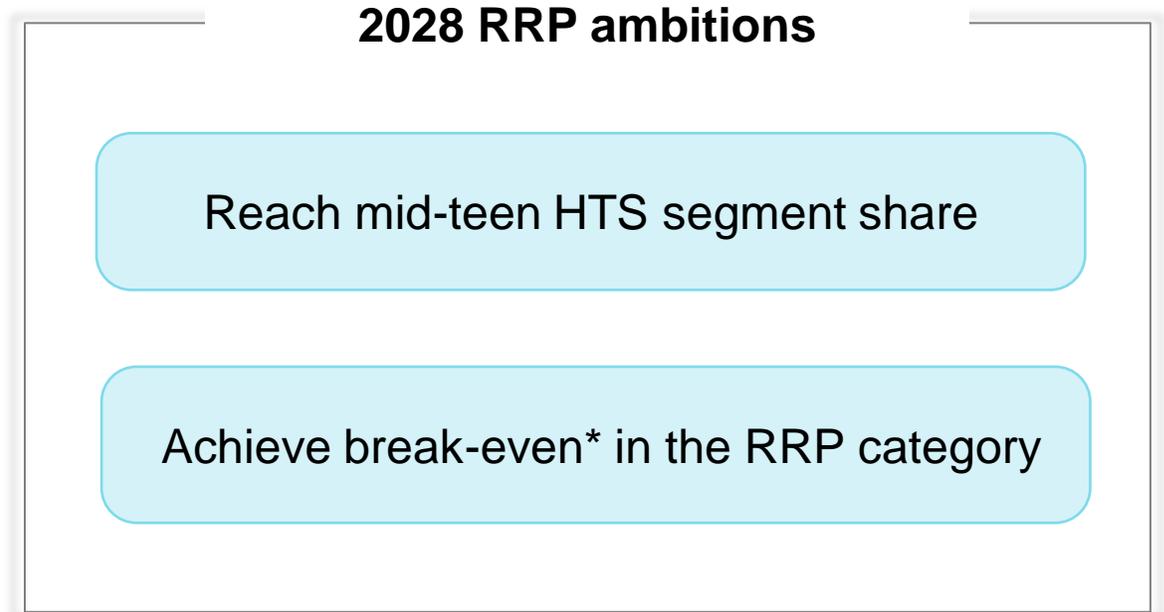
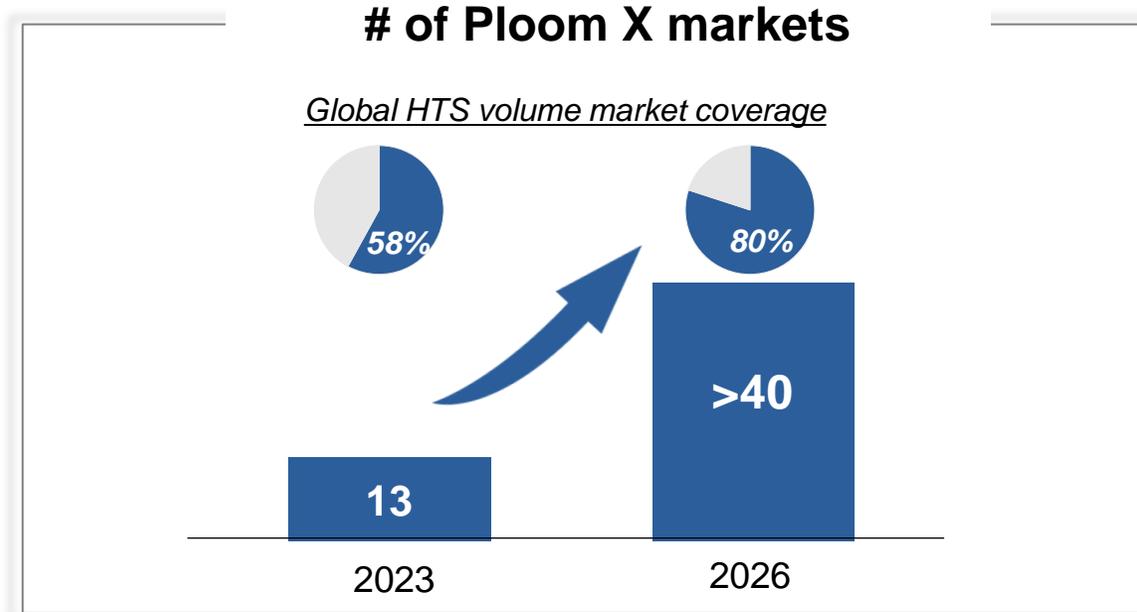
収益性の高いトップライン成長の実現

- 事業環境変化に対応した価格改定施策の着実な遂行
- 高付加価値な商品群への資源配分を強化
- 中長期的視点での事業成長に向けた取組みの加速

2024-2026 Combustibles assumptions		
	Volume	Net revenue
Industry	-2.6%	+1.8%
	GFBの牽引による シェア伸張	プライシング 機会の捕捉
	-1.5 ~ -0.5%	Mid single digit growth



- HTSを最優先投資対象とする戦略は、RRPカテゴリにおける数量及び売上収益の見立てに裏打ちされたもの
 - 売上収益において、HTSはRRPの中で最大カテゴリであり、最も早いペースで成長する見立て
- 自社のRRP売上収益は、2026年末までに2023年対比で約2.5倍に増加



- 激化する競争環境下において、新たなHTSデバイスの投入や地理的拡大の推進等、各種マーケティング施策の実行に向け、引き続きHTSへの重点的な投資を継続
 - 地理的拡大により、2025年末には世界全体のHTS総需要の約80%をカバーする見込みであり、2026年末までに40以上の市場でPloom Xを展開
- HTSの展開市場拡大、販売数量の増加、SoSの伸張、及びこれらを通じたRRPの段階的な損益改善を見込んでおり、2028年のRRP中期展望に対して順調に進捗していることを確認

25項目からなるJT Group Sustainability Targetsを策定

JT Group Purpose

心の豊かさを、もっと。
Fulfilling Moments, Enriching Life

JT Group Materiality

自然や社会と人の暮らしはつながっており、自然や社会が持続可能であってはじめて、人の暮らしや企業の活動も持続可能となります。JTグループはJT Group Purposeの具現化を通じて持続可能な自然や社会づくりに貢献していくために、以下のマテリアリティ（重要課題）に取り組んでいきます。

<p>自然との共生</p> 	<p>お客様の期待を超える価値創造</p> 	<p>人財への投資と成長機会の提供</p> 	<p>責任あるサプライチェーンマネジメント</p> 	<p>良質なガバナンス</p> 
<p>自然環境に与える影響の改善に向けた取り組みを通じて、自然と人や企業の健全な関係性を保全</p>	<p>お客様の期待を超える多様な製品・サービスを創出</p>	<p>人財の多様性に着目した成長支援を含む人財への投資や、多様な個性がその能力を最大限発揮できる組織風土の醸成を通じた人的資本の拡充</p>	<p>人権尊重や自然環境保全など多様化する社会課題への適切な対応を通じ、事業環境の急激な変化に耐えうる持続可能なサプライチェーンを構築</p>	<p>さまざまなステークホルダーの満足度を高め、信頼される企業体であり続けるためのガバナンスの充実</p>

JT Group Sustainability Targets

マテリアリティに紐づく Sustainability Targets (25項目)

25項目からなるJT Group Sustainability Targetsを策定



生態系影響評価の実施



温室効果ガス排出量の削減



再生可能エネルギーの活用



責任ある水資源マネジメント



森林資源の保全



廃棄物による環境負荷の低減



製品および容器包装リサイクル



持続可能な農業



RRP展開市場の拡大



リスク低減に係る科学的知見の発信



未成年喫煙防止対策



FIC(ファースト・イン・クラス)
医薬品の創出



フードインクルージョンへの貢献



DE&Iの推進



人財の戦略的な確保



働きやすい環境の整備



心身の安全・健康の推進



自律的な成長の支援



社内外との共創の促進



サプライヤースクリーニングおよび
デュー・ディリジェンスの推進



たばこ農家の生活収入



児童労働を含む人権モニタリング



グリーンバンス・メカニズム



コミュニティインベストメント



事業特性に即した内部統制

JT Group Sustainability Targetsの詳細は、JTウェブサイトをご覧ください
<https://www.jti.co.jp/sustainability/index.html>

JT Group Purpose

- 新たに掲げたJT Group Purposeは、従業員をはじめとするステークホルダーに、着実に浸透
- 経営陣による拠点訪問及び従業員との対話など年間を通じてPurposeの浸透・実践の促進を図る

心の豊かさを、
もっと。

D-LAB

- Purpose具現化に向けた取り組みとして、コーポレートR&D組織であるD-LABを設置。「心の豊かさ」を中心概念とした研究や未来の事業シーズの探索・創出を長期的視点で継続



© Copyright JT 2024



Closing Remarks

寺富正道
JT Group CEO

- 厳しさを増す事業環境下、全事業において利益成長を達成
 - Combustiblesにおける力強いプライシング及びシェア成長
 - HTSの数量及びシェア成長
 - 医薬及び加工食品事業もグループの利益成長を補完
- 4Sモデル及びJT Group Purposeに基づく経営資源配分方針に変更はなし
- HTSをCombustiblesに次ぐ第二の成長エンジンとすべく戦略的投資を実施
- 今次経営計画期間における全社為替一定AOPの成長率はmid single digit
- 中長期に亘る持続的な利益成長を通じて、株主還元の向上を追求

心の豊かさを、
もっと。

